令和３年度入試問題　正解・解答例

小論文（水産学部）

解答例

小学校において「理科が得意だ」と回答した児童の割合は、2003 年の 74%から 2015 年の 84%と増加している。しかし中学校では、2003 年の 49%から 2015 年の 45%と減少している。このことより、日本では中学校へ進学すると理科が得意な生徒は大きく減少し、なおかつその割合は、年々低下していることがわかる。また国際平均と比較すると、理科が得意な小学生の割合は国際平均を上回っているが、中学生の割合は下回っている。つまり日本では、中学校で理科が得意な生徒の減少する割合が国際平均よりも大きい。

日本の児童が中学校に入ると理科が得意でなくなるのは、中学校での理科教育が他国に比べ、受験を目的とした点数重視の教育になっているからではないだろうか。そのような教育では、つまらないと感じる生徒が多いだろう。そこで私は、中学校での理科教育を受験に偏らない内容にすべきだと考える。そのためには、野外活動や実験を増やす取り組みが必要であろう。なぜなら、それらを通じて自然の真理や科学の面白さが生徒に伝わるからである。そのような教育を行うことで、中学生の理科に対する興味関心や学びたい意欲が高まり、ひいては理科が得意な生徒が増えるのではないだろうか。